

## ■ 本文

- ① 少しのことにも、先達はあらまほしき事なり。（『徒然草』第五十二段）
- ② いかでこのかぐや姫を得てしがな、見まほしと、音に聞きめでて惑ふ。
- ③ 深き山の奥にこそ、心しづかに住ままほしけれ。
- ④ いかで都の便りを聞かまほしう思へど、たより絶えてなし。
- ⑤ あはれと言ふべき人もあらまほしき世なり。
- ⑥ この花の散らまほしからぬほどに、いま一度見ばや。
- ⑦ 昔の友に今ひとたび逢はまほしきこと、せちなり。
- ⑧ われもその舟に乗りたしと申ししかど、許されず。
- ⑨ この刀、いかにもして手に入れたくおぼゆ。
- ⑩ いま一献、この酒を飲みたきものかな。
- ⑪ その山の景色、ひと目見たけれど、道遠くしてかなはず。
- ⑫ われは故郷へ帰りたし。されど世のしがらみ多くして、え帰らず。
- ⑬ 京なる人に、この事つぶさに語りたくこそ侍れ。
- ⑭ この書、写したくて、夜もすがら筆を執りぬ。

※②～⑭は、助動詞「まほし」「たし」の用法を学ぶための学習用オリジナル例文（擬古文）です。①のみ『徒然草』からの正確な引用です。

## ■ 設問（全23問）

1. 例文①「あらまほしき事なり」の「まほし」の表す意味として最も適切なものを、次から選べ。  
ア 希望（～てほしい・～たい） イ 推量（～だろう） ウ 打消（～ない） エ 過去（～た）
2. 例文①「先達はあらまほしき事なり」を現代語訳せよ。
3. 「まほし」「たし」はいずれも自己の希望が中心だが、ときに「～てほしい」と他への願望を表すこともある。例文①の「先達はあらまほし」は、自己・他者のどちらへの希望に近いか。理由とともに簡潔に説明せよ。
4. 「まほし」は動詞のどの活用形に接続するか。活用形の名称で答えよ。また、例文②「見まほし」の「見」は何形か、あわせて答えよ。
5. 例文③「深き山の奥にこそ、心しづかに住ままほしけれ」を現代語訳せよ。
6. 例文④「聞かまほしう思へど」の「まほしう」は、もとはどのような形が変化したものか。次から選べ。また、この音の変化を何というか答えよ。  
ア まほしく イ まほしき ウ まほしけれ
7. 例文⑤「あはれと言ふべき人もあらまほしき世なり」を現代語訳せよ。
8. 例文⑥「散らまほしからぬほどに」の「まほしから」は、「まほし」に打消「ず」が付いて「散ってほしくない」の意になっている。この「まほしから」の活用形を答えよ。
9. 例文⑧「その舟に乗りたしと申ししかど」の「たし」の表す意味として最も適切なものを、次から選べ。

ア 希望（～たい） イ 当然（～べきだ） ウ 完了（～てしまった）

10. 「たし」は動詞のどの活用形に接続するか。活用形の名称で答えよ。また、例文⑧「乗りたし」の「乗り」は何形か、あわせて答えよ。

11. 例文⑩「いま一献、この酒を飲みたいものかな」を現代語訳せよ。

12. 例文⑫「われは故郷へ帰りたし」は、だれの希望を表しているか。次から選べ。

ア 自己（話し手自身）の希望 イ 他者への願望（～てほしい） ウ 一般的な事実

13. 例文⑫「われは故郷へ帰りたし。されど世のしがらみ多くして、え帰らず」を現代語訳せよ。

14. 例文③「住まほしけれ」と例文⑤「あらまほしき世なり」では、希望の対象（願っている内容）はそれぞれ何か。簡潔に答えよ。

15. 例文①「あらまほしき」、例文③「住まほしけれ」、例文⑦「逢はまほしき」の「まほし」の活用形（未然形・連用形・終止形・連体形・已然形）を、それぞれ答えよ。

16. 例文⑨「手に入れたくおぼゆ」、例文⑩「飲みたいものかな」、例文⑪「見たけれど」の「たし」の活用形を、それぞれ答えよ。

17. 助動詞「まほし」の活用は、形容詞のどの活用型と同じか。次から選べ。

ア ク活用型 イ シク活用型 ウ ナリ活用型

18. 助動詞「たし」の活用は、形容詞のどの活用型と同じか。次から選べ。

ア ク活用型 イ シク活用型 ウ ナリ活用型

19. 次の二つの語のつながりについて、( )に入る動詞の活用形の名称を答えよ。

(1) 「住ま+まほし」…「住ま」は四段動詞「住む」の( )形。

(2) 「乗り+たし」…「乗り」は四段動詞「乗る」の( )形。

20. 「まほし」と「たし」は意味がほとんど同じだが、使われ方にちがいがあある。接続と用いられる時代・文体の二点から、両者のちがいを説明せよ。

21. 次の傍線部「たき」「たく」「たけれ」のうち、**已然形**はどれか、例文番号で答えよ。また、そう判断できる手がかりを一つ示せ。

22. 「あらまほし」という語は、現代語の「あらまほしい（理想的だ・好ましい）」のもとになった。「あらまほし」を単語に分けると、どのような組み立てになるか説明せよ。

23. 次の現代語を、希望の助動詞を用いた古文に直すとき、( )に入る最も適切な語を答えよ。

(1) 「(この花を) 見たい。」… この花を 見( )。(連用形接続の口語的な語で、終止形)

(2) 「(人が) いてほしい。」… 人 あら( )。(未然形接続の優美な語で、連体形「～き」につながる形)